

PICK UP 馬場

絆
無事です
元気しています
馬場地区

「災害に 強いまち」

めざすのは

馬場地区自主防災会

1. 活動 地区全体対象活動

平成30年7月豪雨では全国で死者220人、行方不明者10人、負傷者388人、住宅全壊5、443棟、半壊6、597棟、床上浸水11、544棟、床下浸水20、646棟の被害（消防庁情報8月7日）がありました。昨今の日本列島は、大地震、大津波、豪雨、火山噴火など過去に例を見ない異常気象に見舞われています。

いつ起こるか分からない災害から安全安心を確保するためには、行政の「公助」による活動には限度があります。個人の自覚に根差した「自助」、地域コミュニティ等による「共助」が不可欠です。

今回の紙面には地域防災活動に多くの皆さんが参加しています、馬場地区自主防災会の活動について紹介します。



津波避難訓練・いっとき避難場所から馬場公園に集合



簡易担架を用いた搬送訓練

会長のコメント
「自助」「共助」「近助」！地震・津波・台風などの自然災害を最小限に食い止めるために必要とされる、地域住民とのつながりを大事とする温もりのある馬場地区自主防災会を構築する。その第一歩は近助の精神と考えます。



自主防災会の白木さん(右)と伊藤さん(左)

2. 防災啓発活動



文化祭での「防災もち」作り 盆踊りでの展示
防災の心構えのお知らせで包んだもちを販売。収益は防災備品などの購入に充当しています。地区の行事に参加された方へ、防災に関する情報を提供しています。

3. 防災定例活動

- ①定例会議を毎月第3水曜日に、5・9月は自治会役員、民生委員・児童委員も同席で開催しています。
- ②防災用資機材の点検及び機動的な活用訓練を毎月第2土曜日に実施しています。
- ③防災巡回点検
自治会の町内会長及び自主防災会員を中心に消火栓、消火器

災害が発生した際の避難者の安全や一時的な生活を確保する上で重要な役割を担っています。避難所の運営について、「馬場」〔中丸〕「国府新宿」〔月京〕の4地区では、大磯町指定避難所である国府小学校において、年4回定例会議を開催し、「輪番制」による避難所運営委員会の4地区分担の確認、防災に関する検討や情報交換等を行い、4地区合同での防災訓練や通信訓

4. 西部4地区との連携

の配置図の作成や管理状況の確認、道路等の危険箇所の点検を行っています。



機材の始動点検



倉庫内の資機材点検



巡回点検



4地区合同避難所運営訓練

- 馬場地区自主防災会基本理念
1. 大磯町及び関連団体などと連携強化し、防災意識の共有を図る。
 2. 各種訓練等を通じ「防災への強化」について、啓蒙に努める。
 3. 被害発生時を想定した運営体制やスキルの向上訓練に努める。

「我が身・我が命は自分で守る。我が家・我が町は自分たちで守ろう!」をスローガンに、この3か条を実践しています。



救命講習会(年2回)



スタンドパイプ※訓練(年2回)



※スタンドパイプとは、いざという時、住民が活用できる消火資機材の一つです。道路上などにある消火栓に差し込み、ホースをつなぐことで消火することができます。町内24地区に設置されています。軽量で操作も簡単です。地域の防災訓練に参加し、ぜひ使い方を覚えてください。

「防災行政無線ダイヤル」

防災行政無線の放送内容は電話でも確認できます。

ハッサイ オオイソ
発災 0150
0120 (83) 0150

「そのときどきする
自分は近所は地域は」

総合防災訓練を実施
9月30日(日)
午前8時30分から

災害が発生した際、自分の身を自分の努力によって守る「自助」や、地域や近隣の人が集まり、互いに協力しながら防災活動を行う「共助」の取組みが重要になります。昨年度に引き続き「発災から避難所開設までの間」に地域で取り組むべき内容として「安否確認訓練」を町内各地区において実施します。詳細は、こちらの広報と同時に配布されているチラシをご覧ください。

問都市計画課 内線244

住宅の耐震診断・補強改修工事補助金

昭和56年5月31日以前に建築された旧耐震基準の木造住宅を対象に「住宅の耐震診断等」の費用に補助を行っています。今年度から自己負担分のみで住宅耐震診断を受けることができる「補助金の委任払い制度」も利用できます。

▼受付申請締切
12月28日(金)まで
※いずれも先着順。年度内に完了するなど条件等があります。

かながわシェイクアウト
9月5日(水) 午前11時

登録方法等詳しくは町役場配架チラシや、神奈川県ホームページをご覧ください。

まずくく へんをなもり うごかない
DROP! COVER! HOLD ON!

問危機管理課 内線244